

平成 23 年度学校保健講習会及び薬物乱用防止教室講習会 (兼薬物乱用防止教育専門指導員養成講座) 報告

※詳細につきましては、ホームページをご覧ください。

10月2日千葉県薬剤会会議室で午後1時より開催されました。参加人数 141人

1. 学校環境衛生の検査結果に対する措置とウイルス感染症について

東北薬科大学薬学部名誉教授

日本学校薬剤師会常務理事・宮城県学校薬剤師会副会長 横田 勝司先生

①学校保健安全法の主な変更点は、(定義)第2条「学校」とは、学校教育法第1条に規定する幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校、大学及び高等専門学校(1条校という)。校長は、学校の環境衛生に関し適正を欠く事項があると認めた場合には、遅滞なく、その改善のために必要な措置(以下、事後措置という)を講じ、又は当該措置を講ずる事ができないときは、当該学校の設置者に対し、その旨を申し出るものとするとなった点です。

～第1 教室等の環境に係る学校環境衛生基準～

- 1) 換気(CO₂)が1500ppmを超えた時は、換気(方法)・燃焼器具の点検・原因の究明・感染症の防止
- 2) 相対湿度が30%以下又は80%以上の場合は、加湿器・除湿器・感染症の防止
- 3) ダニ又はダニアレルギーが基準値を超えた場合は、除湿器・掃除・原因の究明
- 4) 照度が不足した場合の対策は、照明器具の清掃・増灯・照明器具の取替

～第4 水泳プールに係るに係る学校環境衛生基準～

- 1) 大腸菌が検出された場合は、遊離残留塩素を2.0 mg/l位にした後・光分解・気化するのを待つ。
 - 2) 総トリハロメタンが基準を超えた場合は、落ち葉やゴミ及び虫等を除去する。
- ②ウイルス感染症については、特に、ノロウイルスは、10～100個で感染能力があるため予防に注意が必要である。最後に、消毒剤のそれぞれの特徴について話があった。



横田 勝司先生



並木 茂夫先生

2. 薬物乱用防止教室講習会

「学校での薬物乱用防止教育の効果的な実践について～ライフスキルからロールプレイングを学ぶ～」

財団法人日本学校保健会事務局次長、元公立中学校校長 並木 茂夫先生

薬物依存は、そのほとんどが低年齢時の喫煙経験が入口であるともいわれており、その喫煙誘導を絶てば、そこから派生する色々なことが阻止できると考えられています。

子どもが地域で良いことをしたら、誉めたり、悪いことをしたら叱ることも大切である。しかしながら、現在は、子どもの自尊感情(セルフエスティーム)を高める働きかけが少ないため、家庭においては、子どもの話をしっかり聞いてあげることが大切である。

知識習得を学ぶ授業後の生徒の感想には、「自分で調べ・自分で考え・自分で発言したことは、忘れろと言われても忘れられない」などがあり、知識が行動変容に結びつく防止教育として、中学校では、ロールプレイング授業を実施している。ロールプレイングの目的は、新しい行動の仕方について練習し、たくさんの解決策があることを知り、他の人の演技を観察して学ぶことであります。また、ライフスキルとは、WHOの定義によると、日常生活で生じるさまざまな問題や要求に対して、建設的かつ効果的に対処するために必要な心理社会能力をいい、色々なスキルがある。それぞれのスキルの紹介の後、ロールプレイングの紹介がありました。